



第3回 楽しいつどい

～ライアーの音色を楽しむ～

プログラム

*楽器と演奏者の紹介・・・ ジルフェの皆さん (3名)

<年少児>

1. きらきら星
2. かごめかごめ
3. いつも何度でも
4. 関西大学幼稚園こどものうた

<年中児・年長児>

1. 冬の星座
2. きらきら星
3. わらべうた 冬
4. いつも何度でも
5. 関西大学幼稚園こどものうた

今回の楽しいつどいは、ライアー（竖琴）の演奏を学年ごとにお部屋で聞かせてもらうことにしました。場所を変えての3回公演になるので、椅子を運び入れたり、お花を並べたり、譜面台を用意したりする様子を、子どもたちはわくわくしながら見ていました。椅子が3脚だったので「お客さん、3人や」と予想したり、譜面台を見て「お歌かな？」、テーブルの上にメルヘンクーゲル（音の出る銀の球）を置くと「マジックや！」と年長児。年少児と年中児も待たされている様子は全くなく、【待つ楽しみ】が子どもたちの声や表情から伝わってきました。

準備が整い、ジルフェの方々がライアーを抱いて入室されると、今から始まることに興味津々といった年少児と年中児。年長児の中には、年少時の記憶が残っていた様で「あっ、知ってる」という表情でした。

そして、ライアーの音色を聞いたとたん、どの学年も「きれい！」。

初めて聞く曲には耳を澄まし、聞いたことがある曲には顔がほころび、関大幼稚園こどものうたの時には、ライアーの優しく静かな音に合わせてるように、小さな声で歌っていました。

ライアーは、シュタイナー教育において、心と体と魂を癒す「治療」を目的とした楽器として考案されたものです。その生みの親は、ドイツの音楽家プラハトと彫刻家ゲルトナーで、二人は試行錯誤を重ねた結果、人間にとって本当に必要な楽器としてハープに近い弦楽器にいきついたそうです。1926年に誕生したライアーは、“静けさを聴く”楽器として発展し、現在、その音は、脳や心を癒し、直接体に振動を伝えることによる治療効果から、シュタイナー教育の現場はもとより様々な場所で用いられているようです。

ライアーの原型となった竖琴型の楽器の起源は古く、古代ギリシャ時代には、精神世界・医療・教育において、非常に重要な役割を担っていました。時代は大きく変化し、音に溢れた時代に生まれ育っている子どもたちに、私たちは、こんな音（音色、響き）があることを知らせたいと思います。生活の中で、大きな音や刺激の強い音に出合うことはよくあることだと思いますが、小さな音や柔らかな響きなどは、聞こうと意識しなければなかなか耳に入ってきません。意識して自分から取り込むことで、本来人間に備わっている、心と体を安定させる能力を目覚めさせるのでしょうか。（自然治癒力ですね）

人間は心や体の許容範囲をオーバーした場合には、体が自然と反応して聞き流したり、聞こえなかったりするようですが、騒音や機械音に慣れる生活ではなく、意識して自然の音に耳を澄ませることを大切にしたいですね。特別、野山に出掛けて自然を感じさせる、鳥や虫の声を聞かせる、ということをお勧めしている訳ではありません。普段の生活の中でも、少し意識するだけで出合えるのではないのでしょうか。

私たちは「聞く」という姿の延長線上に、【友だちのどんな小さな声にも耳を傾けられる子に】という理想の子ども像があります。

写真展示のお知らせ

- <日時> 1月25日（木）
12:30～13:30
- <内容> 園外保育（年長・年中・年少親子）